

## 「身延線鉄道唱歌」 推敲協力をお願い

大岩 3 区の渡井勝士さんより、下記の「身延線鉄道唱歌」の歌詞をもらいました。この歌詞は、渡井さんの知合いの「小澤 肇」氏が作られました。小澤氏は南部町出身、現在富士市在住。略歴などは大岩 3 区公式ホームページにて紹介しております。平成 28 年 3 月現在で 91 歳。ご本人とお話をし、この歌詞のホームページや SNS 掲載の許可を得ております。

また、より多くの人々の口に上るように、多少の言葉の変更も許可していただきました。七五調におさまらないところ、その土地を良く知る者には、この駅名にはこの事績の方がより愛着が湧く、などの、多くの人々の気持ちや意見も聞きながら、微調整し、皆さんに親しまれるものにしてゆきたいと思います。

ただ、原作者の小澤 肇氏は、作詞に当たり、各駅付近の現地の図書館等にもおもむいて相当の研究を重ねたそうです。小澤氏の郷土愛や詩情、最初にこれを書きあげた独創性は素晴らしいもので、そのお名前は原作者として残したいと考えます。また、皆様協力により完成の暁には、種々な場面で利用していきたいと思います。

推敲と完成後の利用の仕方等について、是非ご提案をお願いいたします。

なお、平成 28 年 6 月時点で、富士宮市の教育関係者の皆さんに歌詞の推敲をしていただいております。また南部町教育関係者の方々にもお願いしています。ご意見が付き、変更すべきところもありますが、現時点で懸案となっており、変更が完了しておりません。これらのご意見や、変更すべき方向、歌詞の推敲の履歴など、大岩 3 区ホームページに掲載しております。よろしくご協力をお願いいたします。

富士宮市大岩 3 区まちづくりプロジェクト代表 松田 壽久

鉄道唱歌（明治 33 年 5 月）地理教育鉄道唱歌 東海道編（歌詞は一番のみ掲載）

♪ 汽笛一声 新橋を はやわが汽車は 離れたり  
愛宕の山に入り残る 月を旅路の 友として

【身延線鉄道唱歌】 作詞 小澤 肇 (作曲 多 梅稚 (おおのうめわか)) (H28. 6. 11 版)

- 1 汽笛一声 富士駅を わが乗る列車 離れたり (きてきいっせいふじえきをわがのるれっしゃはなれたり)  
三十九駅 九十軒 普通列車の旅とせん (さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしゃのたびとせん)
- 2 柚木 堅堀 入山瀬 富士梨 出場所 この辺り (ゆのきたてぼりいりやませ ふじなしでばしょこのあたり)  
三大仇討ち 一つなる 曾我兄弟の 寺社があり (さんだいだうちひとつなる そがきょうだいのじしゃがあり)
- 3 右に霊峰仰ぎつつ 富士根にたなびく 雲の帯 (みぎにれいほうあおぎつつ ふじねにたなびくくものおび)  
富士宮は 登山口 浅間大社に神田川 (ふじみやとはとざんぐち せんげんたいしゃにかんだがわ)
- 4 西富士過ぎれば左に見ゆる 沼久保駅を「ぼくまぬけ」(にしふじすぎればさに見ゆる ぬまくぼえきを「ぼくまぬけ」)  
逆さに読んで 失礼す こちらで富士山 さようなら (さかきよんでしつれいす こちらでふじさん さようなら)
- 5 三大急流富士川に 沿って行きます芝川は (さんだいきゅうりゅうふじかわに そってゆきますしばかわは)  
筍・梅の産地なる自然の豊かな川の町 (たけのこ・うめのさんちなる しぜんのゆたかなかわのまち)
- 6 戦国武将信長公 首塚西山本門寺 (せんごくぶしょうのぶながこう くびづかにしやまほんもんじ)  
平家の落武者維盛の 墓が稲子の奥に在り (へいけのおちむしゃこれもりの はかがいなこのおくにあり)
- 7 稲子で駿河を後にして 甲州十島よいところ (いなこでするがをあとにして こうしゅうとうしまよいところ)  
義民で命かけた人 佐倉惣五郎出たところ (ぎみんでいのちかけたひと さくらそうごろうでたところ)
- 8 井出ては寄りはた内船へ 南部の火祭り空焦がす (いでてはよりはたうつづなへ なんぶのひまつりそらがす)  
奥州南部の祖の地なり 遺風は今に伝えらる (おうしゅうなんぶのそのちなり いふうはいまにつたえらる)

- |    |  |   |
|----|--|---|
| 9  | 身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の総本山<br>五重の塔の再建に 枝垂れ桜が花添える                 | (みのぶのえきにおりたちて にちれんしゅうのそうほんざん)<br>(ごじゅうのとうのさいけんに しだれざくらがはなぞえる)                     |
| 10 | 信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん<br>湯の奥甲州金山は 武田氏支えた軍資金                 | (しんげんこうのかくしゆの しもべでつかれいやされん)<br>(ゆのおくこうしゅうきんざんは たけだしささえたぐんしきん)                     |
| 11 | 全国各地に木像を 遺せし木喰上人の<br>生れは古関微笑館 山の上でも人絶えず                  | (ぜんこくかくちにもくぞうを のこせしもくじきしょうにんの)<br>(うまれはふるせきびしょうかん やまのうえでひとたえず)                    |
| 12 | 市ノ瀬久那土甲斐岩間 印章で名高き町なれや<br>向いの西島和紙作り 書家の望みの叶う町             | (いちのせくなどかいいわま いんしょうでなだかきまちなれや)<br>(むかいのにしじまわしつくり しょかののぞみのかなうまち)                   |
| 13 | 視界が開けて鯉沢 舟運の名残り今はなく<br>敷かれし鉄路に抛る処 甲駿交流夜明けなり              | (しかいがひらけてかじかざわ しゅううんのなごりいまはなく)<br>(しかれしてつろによるところ こうすんこうりゅうよあけなり)                  |
| 14 | 市川大門本町 知恵の文殊の名も高く<br>市川団十郎の出た所 夢々共々忘れなん                  | (いちかわだいもんほんまち ちえのもんじゆのなもたかく)<br>(いちかわだんじゅうろうのでたところ ゆめゆめともどもわすれなん)                 |
| 15 | 笛吹川を打ち渡り 見よや果樹やら野菜やら<br>果樹王国と謳わるる 甲府盆地の花輪なる              | (ふえふきがわをうちわたり みよやかじゆやらやさいやら)<br>(かじゆおうこくとうたわるる こうふぼんちのはなわなる)                      |
| 16 | 四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く<br>山紫水明善光寺 石和の湯けむり指呼の間              | (よものやまにめをやれば くもつくやまなみやたかく)<br>(さんしすいめいぜんこうじ いさわのゆけむりしこのかん)                        |
| 17 | 終点甲府は中央線 乗り継ぐ人も数多く<br>躑躅ヶ崎今も尚 武田の遺跡守れかし                  | (しゅうてんこうふはちゅうおうせん のりつぐひともかずおおく)<br>(つづじがさきいまなお たけだのいせきまもれかし)                      |
| 18 | 時は人を替えれども 山梨静岡両県の<br>明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ<br>身延線と共に栄えあれ | (ときはひとをかえれども やまなししずおかりょうけんの)<br>(あかるくへいわなさとづくりみのぶせんとともにさかえあれ)<br>(みのぶせんとともにさかえあれ) |

#### 【身延線の沿革】

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 創設の認可 | 明治 44 年 (西暦 1911 年) 4 月 26 日  |
| 2 | 社名    | 富士身延鉄道株式会社  |
| 3 | 資本金   | 4 百万円   |
| 4 | 工事着工  | 大正 2 年 1 月 8 日  |
| 5 | 部分開通  | 大正 9 年 5 月 18 日 富士駅から身延駅まで汽車運行                                      |
| 6 | 全面開通  | 昭和 3 年 3 月 28 日 (1928 年)<br>富士駅～甲府駅 電車運行 88.4 k m                   |
| 7 | 国鉄移行  | 昭和 16 年 5 月 (1941 年) 日本国有鉄道 線名を身延線とす                                |
| 8 | 民営化   | JR 東海 昭和 62 年 4 月 (1987 年)<br>社名 JR 東海道旅客鉄道株式会社                     |
| 9 | 付記    | 身延線全線開通 80 周年行事と併せて富士宮駅高架化着工祝賀行事富士宮駅で開催<br>平成 20 年 4 月 6 日 (2008 年) |

#### 【この件に関する連絡先】

富士宮市大岩 3 区まちづくりプロジェクト代表  
富士宮市大岩 3 区文化部長

松田 壽久

T E L 080-7012-6024

メール ooiwa39@gmail.com